

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国小学校
校長名	渡邊 圭三

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全ての学年、領域で全国平均をほぼ上回る。 3. 6年国語、4年社会は、全ての観点で全国平均を10P以上上回る。・観点別で全学年を通して状況が良いのは、国語の「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」で、全国平均を10P以上上回る。・教科全体の経年変化で伸びているのは4年算数、6年国語・算数で、とりわけ6年国語は5Pも上昇している。・D・E層の割合の経年比較では6年算数で7.2Pと減少している。	<p>→理科の平均正答率は他の教科と比較して数値が低い。5年は全国平均に届かず、4. 6年もほとんど差がない。</p> <ul style="list-style-type: none">・算数では「知識・技能」の観点が本校平均と全国平均と比較して3~7Pの範囲にとどまる。・基礎・活用別では、理科の基礎が▲10Pから+1.0Pと低い傾向にある。・教科全体の経年変化では5年理科、6年社会・理科で伸び悩んでおり、とりわけ5年理科では6.7P下降している。 <p>→それ以外の教科では±0から0.7Pに止まり、割合の減少にはもう一歩である。</p>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「勉強するときは自分で計画を立てている」の肯定率は5. 6年ともに約62Pで全国平均を約3P上回る。・「ノートの取り方について自分なりの工夫をしている」の肯定率は6年75.6Pで本校5年を約5P、全国平均も約5P上回る。・「考えたり考えたことを表現したりすることが好き」の肯定率は6年67.8Pで、4年からの進行で約5Pずつ上昇している。・「タブレット端末等を使って話し合い活動が深まる」の肯定率は5年74.0P、6年77.8Pと7割を超える。	<ul style="list-style-type: none">・「テストで間違えた問題を後でやり直している」の肯定率は2年91.7Pだが、学年進行に伴い低下傾向にある。取組を徹底させ、習慣化を図りたい。・「不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べている」の肯定率は、学年間に差が見られ高い学年で63.3P、低い学年は44.0Pである →一方で「学校の授業で積極的に発言している」の肯定率は4年41.1P、6年45.6Pと5割を下回る。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・発言を促すと発表できたり、限定されるが進んで積極的に発表したりする児童がいる。・グループで相談しながら考察したり作業したりする活動を好み、そうした場面で自分の考えを伝えられる。・家庭学習では、低学年を中心に、音読、漢字・計算練習等の学習には熱心に取り組み、ほとんどの児童が提出できている。・じっくり問題を読み、最後まで丁寧に取り組める姿が見られる。	<ul style="list-style-type: none">・全般に、自分の考えに自信をもてず、発表することに消極的である。考える時間を確保したり表現する力を伸ばしたりする必要がある。・書くことに抵抗がある児童が多い。振り返りや学習感想等で具体的に各場面をつくる必要がある。・家庭学習では、長時間学習する児童と宿題のみに留まる児童と二極化している。自分で計画して学習が進められるようにしたい。・特定の児童が宿題を提出できていない傾向にあり、学校で取り組ませている。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

上記の状況を踏まえ、本校がこれまで継続してきた「両国小・学力向上 6 つのチャレンジ」を修正を加えながら全校で取り組む。また、今年度は全児童の机・椅子の脚部分にテニスボールを装着することで消音効果を高めて聴覚刺激を低減し、学習に集中できる環境を整備している。

(1) 必ずテスト直しをすること（高学年では自己分析と学習計画も）

全学級で取り組んだはずであるが、「いつもやり直している」という意識の児童は学年進行するにつれて低下している。「やらなくても済んでいる」状況があり、個人差・学級差が生じている。第5・第6学年においては、直すだけでなく、誤答の原因を分析させ、そのためにどのような学習が必要なのか、主体的に計画を立てられるように指導する。

(2) 辞書をいつでも引けるようにすること

1年生からすべての教室に辞書を設置し、3年生以上は机の横に「辞書袋」をぶら下げるなど、家庭にも呼びかけ、辞書に親しむ環境を整えている。高学年の児童の語彙力は極めて高いので、他学年にも波及できるように、さらに習慣化するように指導する。

(3) 地図帳をはじめ様々な地図や地球儀等を活用すること

「テレビの横に地図帳」を家庭にも呼びかけ、学校においても地図に親しむコーナーを設置している。校外学習等においても、地図を活用する場を設け、地図を読み、活用できる力を育成してきた。社会科の授業において、地図帳を活用する場面を意識的に増やすようにする。地球儀も身近に置いておきたい。

(4) 理科実験OJT及び理科室や学校園等の理科学習の環境整備

これまで「理科実験OJTの実施」「理科室及び準備室等の環境整備」等、理科学習の充実 に力を入れてきた。校内研究においても、理科分科会を設置し、理科の研究授業を重ねてきた。教科部会の

理科部、校内研の理科分科会が中心となり、理科教育の充実をより一層推進する。

(5) 「両国小 板書・ノート作りの手引き」の活用と加除修正

「両国小 板書・ノート作りの手引き」を学力向上委員会と国語・社会・算数・理科担当が協働で作成し、全教員に配付された。その手引きをタブレット内で常時閲覧でき、授業改善に活かすことで、全学年の板書やノート指導が充実してきた。さらに、加除修正を加え共通理解を図るようにする。

(6) 「ピンポイント学習」の継続実施

各学年の苦手分野を朝学習で一斉に取り組む「ピンポイント学習」(月1回)を確実に実施したことにより、学力状況調査の結果に結びついた。全学級が同時に「ピンポイント学習」に取り組み、継続することが更なる成果を生み出すことになる。

(7) プラスの部分(4つの力の育成&基礎的・基本的な知識の定着)

- ☆ 校内研究で育成を目指してきた4つの力「①思いや願いをもつ力、②読み取る力、③自ら表現する力、④関わり合う力」の育成を継続して目指し、全教科・領域を通して実践する。
- ☆ 基礎的・基本的な知識の定着を重点目標とし、家庭と学校が連携して児童の学びを支える。

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ D・E層をC層に引き上げること。B層の上位をA層に引き上げること。
- ・ 意識調査において、「テスト直し」「自分で調べる」の完全定着を8割以上に高めること。
- ・ 令和3年度の学習状況調査で平均正答率が低かった問題を「ピンポイント学習」で克服すること。